

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
37	川崎市立犬蔵中学校	田中 理恵

学校教育目標	中期学校経営目標
<p>生命・いのちを尊重し、生きる力を育む</p> <p>1. 社会の一員としての自覚を持ち、正義を重んじ、いのちの大切さを実感できる人</p> <p>2. 一人ひとりの人権を尊重し、誠実で信頼できる人</p> <p>3. 勤労を尊び、自ら学ぶことのできる人</p> <p>4. 身体を鍛え、自分を大切にできる人</p> <p>5. 夢と希望を持ち、目標の実現に向かってためまぬ努力をする人</p>	<p>1. 確かな学力が身につく学習活動の推進(令和5年度重点目標)</p> <p>2. 意欲的な諸活動の推進</p> <p>3. 豊かな心づくりの推進</p> <p>4. 安全で安心できる学校づくりと地域・保護者との連携</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 確かな学力が身につく学習活動の推進	<p>○学習指導要領の目標・内容に基づき研鑽と評価・評定の見直しを行う</p> <p>○教科会、授業見学会などを通して授業力向上等を図る</p> <p>○キャリア教育の視点から指導内容および評価の再設定を行う</p> <p>○ICTを効果的に活用し、授業改善に努める</p> <p>○学習のねらいを明確にしたユニバーサルデザイン授業を展開する</p> <p>○学習室運用を含めた支援教育の校内体制の充実と学習指導のあり方を研究する</p>	<p>○教科会を通して、進度の確認や教材・評価について協議し、その都度改善改良を行っている。</p> <p>○授業見学会、学習状況調査に関わる職員研修を実施し、授業力向上、適切な確かな評価評定に努めている。</p> <p>○生徒・保護者とも学習評価に対する関心が高く、教員が適切な説明をできることは必須である。今後も評価方法の研修を実施し、また評価資料の整理と正当性を高め、説明責任を果たせる体制をめざす。</p> <p>○学習室運用をはじめとした支援体制を全教職員で取り組み、支援教育の充実を推進している。</p>	<p>○教職員が学習指導の重要性および小学校からのつながりを再認識し、わかりやすく創意・工夫のある楽しい授業を展開するよう努める。</p> <p>○教科会を継続し充実させ、指導内容や進度、評価方法について共通理解を図り、計画的・組織的に授業を運営する。</p> <p>○ICT機器の効果的積極的な活用を継続する。またユニバーサルデザインの視点で授業改善を行い、インクルーシブ教育の具現を目指す。</p> <p>○評価における3観点を意識した年間指導計画・評価計画の改善を図り、より円滑なカリキュラムの実施を行う。</p>
2 意欲的な諸活動の推進	<p>○生徒一人ひとりの個性を生かし、学級内での役割と存在を感じる生徒を育成する</p> <p>○系統化した体験活動を通して、まとめから発信へ、発信から成果へとつなげる力の育成を図る</p> <p>○学級活動を通して、生徒同士の関係性の改善を図り、協調性を培う</p> <p>○自分の気持ちを言葉や行動に移せることができるコミュニケーション能力を身につけさせる</p> <p>○食育の推進を通して、生徒の意識改善を図りよりよく生きる力の育成を目指す</p>	<p>○学校行事や生徒会活動の体系化・系統化を通して、生徒の主体的な活動を支援するための手立てを講じ、粘り強く指導・支援に努めた。</p> <p>○生徒が学校生活の中で達成感や成就感がもてるように、学級経営の見直しや改善を行うなど、教師の質を更に高める努力が必要と感じている。</p> <p>○話し合いの場が、生徒会本部、生徒評議会、拡大班長会へと広がり、生徒の自主的自発的活動の広がりが見られた。</p>	<p>○学校行事への取組を通して、生徒の主体的な発意行動を引き出し、活動意欲のさらなる高揚を図る。</p> <p>○担任教諭の学級経営支援を学年や組織を超えて相互信頼のもとで十分に行える体制の充実を図る。</p> <p>○学級内での役割分担による存在感の確立や諸活動における評価活動の充実を通して、自己肯定感の高揚を図る。</p> <p>○将来に向けた前向きな考え方を推進し、一人一人の社会的・職業的自立に向け、基礎的・汎用的能力を意識して獲得するため実践内容の充実を図る。</p> <p>○体験的活動のねらいと評価の充実をもとに、系統性をもたせた各学年での工夫ある生徒の実態に応じた取組の充実を目指す。</p>
3 豊かな心づくりの推進	<p>○教科道徳の実践を通して、豊かな心の育成を図ると共にいじめのない、命を大切に思う心を養う</p> <p>○生徒の思いや悩みに対し、寄り添える教職員集団をめざす</p> <p>○自己肯定感を高めさせ、自分に自信をもって生きる力を養う</p> <p>○共生＊共育の推進を通して、生徒の変容を的確に捉え、指導を修正していく手法の確立を図る</p> <p>○教育相談を推進し、相談方法の工夫改善を進め、より適切、的確な生徒の支援等を行う</p>	<p>○日常生活の中での声かけや教育相談の機会を増やすことや生徒アンケートの改善などを図り、教職員の意識を高くすることで信頼関係を築いてきている。</p> <p>○SNS経由での中傷からトラブルに発展する事案が見られる。教職員も技術的な理解も深めながら、継続的な観察と指導を行うよう心がけている。</p> <p>○不登校生徒等については主任会等を通して状況確認、支援教育コーディネーターを中心とした支援体制の充実により、学習室での支援を生かし学校生活への復帰や学習意欲の向上につながるケースが増加した。</p>	<p>○生徒理解を深める教育相談の充実チームとして取り組み、生徒一人ひとりの適切な支援のため情報の共有、対応を充実させていく。</p> <p>○情報機器の発達による諸問題について、他機関との連携を強化し、対応能力の向上を図る。</p> <p>○主任会、学年会議会議に縦横の連絡機能を持たせ、情報共有の徹底を図る。</p> <p>○不登校生徒の減少や一人ひとりに適切に対応できるよう校内支援体制のさらなる充実と保護者等との連携の強化を目指す。</p> <p>○学習室での支援機能とICTを活用した学習環境を充実させ、支援の次段階への動きにつなげる実践を行う。</p>

4	安全で安心できる学校づくりと地域・保護者との連携	<p>○学校・学年・学級たより等による積極的な情報発信を行う</p> <p>○清掃活動、掲示物の充実のための手立てを共通認識し効果的な指導につなげる</p> <p>○防災・震災訓練を通して、自分を守る術が身につくとともに判断できる安全教育を推進する</p> <p>○職員交流、合同研修、授業交流などを通して、小中連携事業の充実と更なる推進をはかる</p> <p>○食育および進路指導を含むキャリア教育において、ソフト、ハード両面での取組を進め生徒保護者への啓蒙に努める</p>	<p>○本年度も学校評価アンケートの項目を見直し、生徒・保護者・教員の認識の違いからという視点で実施した。そのため同じ事象に対する受け止め方の違いという視点から検証を行うことができた。</p> <p>○PTA会議や学校運営協議会で情報交換や状況の聞き取りを実施し、生徒・保護者・地域からの意見をもとにきまりなどの見直しを検討する基盤を構築し、また保護者や地域との連携を図ることを進めた。</p> <p>○生徒・保護者からの評価は概ね良好であったと認識している。今後は、表に出にくい生徒・保護者の声を聞き取り、精査する方策をさらに検討する必要がある。</p>	<p>○小中連携を進め、地域と一体化した指導体制の中で、一人ひとりの生徒の新たな面の伸張を図りたい。</p> <p>○命を守る行動を取れる生徒の育成を目指し、関連する諸活動を推進する体制、学習の機会を検討したい。</p> <p>○諸行事および学習活動において保護者・地域に周知し、協力を得ながらより開かれた高い目的の活動を推進したい。</p>
---	--------------------------	--	--	---

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○学校行事やオープンスクールなど保護者が参加する場面や地域との交流も増えてきて、従前にもどりつつあり、学校の様子がわかるようになった。今後も継続して進めていただきたい。</p>	<p>○学校・家庭・地域の信頼関係をより強め、子どもを真ん中に連携・協力し、教員がしっかりと生徒や保護者に寄り添う態勢を確立し、地域の中で本校らしい学校経営を推進していきたい。</p> <p>○次年度も継続して「学習活動の推進」と「一人ひとりへの支援教育の充実」を教育活動の中で中心的なものとして捉え、教職員の意識改革に取り組み、指導要領との関連、評価(価値づけ)の体系化を行い、個々の力の伸長と学校としての教育力の伸長を具体的に検証していきたい。</p> <p>○指導と評価に対する共通理解と取組を充実させ、妥当性・信頼性を高めるとともに、教育課程の履行に向け、指導の改善や個に応じた指導の充実を努めていきたい。</p> <p>○教職員、生徒それぞれの立場において、緊急時における対応能力、命を守る判断力の育成を図り学校・地域全体としての危機対応能力を高めたい。</p>